



# コスモス

NO.35

校訓：支え合い 学び合い たくましく  
学校教育目標

「ふるさとを愛し 志をもって  
チャレンジする人を育てる」

## 『あらしのよるに』

### ～らくりん座さんと5・6年生による素敵な演劇～

朝9時。大型トラックとワゴン車で〈劇団らくりん座〉の皆さんが来られました。2か月前に、事前のワークショップ（練習会）のために来られた皆さんに再びお会いできました。

「ついに、本番の日がやって来た！！」ワクワク感が2倍にも3倍にも膨らみました。

その後出張に出かけた私が11時45分頃帰って来て見たのは、本番さながらに熱を帯びている最終リハーサルでした。5・6年生の子どもたちが、らくりん座のみなさんの指導を受けながら、本番のような緊張感でがんばっていました。もうすでに、体育館には本番のセットが組まれ、「あらしのよるに」が始まるのを待っていました。

13時、開演。緊迫感のある音楽が流れ始め、ステージ上は暗闇、わずかに青い光が差しています。次の瞬間、真っ暗闇になり、雷が光り、雷鳴が鳴り響きます。1匹のヤギが現れます。またもや雷が響き雷鳴が轟きます。

このおたよりを読まれているみなさんの中の多くの方が、すでにこの「あらしのよるに」を知っていたかもしれません、私は、何日も前から図書館やオープンスペースや職員室にあった本（司書の先生が準備してくれていました）を、前日になってやっと読んでみたのです。そして、冒頭部分の面白さに一気に物語の世界に引き込まれました。そして、「読んでみてよかったです！」読む前よりもさらに楽しみになり開演を迎えたのです。劇ではその面白さが、本の世界とはまた違った魅力いっぱいに表現され、目の前の舞台から私たちに迫ってきました。



壊れかけた小屋の暗闇の中での〈ヤギのメイ〉と〈オオカミのガブ〉の突然の出会い。しかし、暗闇や雷鳴のため、相手がヤギとオオカミであることにお互いに気付かない〈メイ〉と〈ガブ〉。劇は、私が読んだ本のお話通りに進んでいきます。「だったら、次にどうなるのかが分かっているから、あまり面白くないのでは？」なんてことは全然ありません。「次はこうなるかなあ・・・。」というのは分かっていても、役者さんのセリフや演技の迫力、工夫を凝らした舞台のセットなどの演出によって、演劇の世界の中に、完全に引き込まれました。舞台では、1冊目『あらしのよるに』の続編の『あるはれたひに』、さらに『くものきれまに』などの場面が展開されていました。

そして、ついに・・・、ついに・・・、それまで観客として演劇の世界に浸っていた5・6年生が、今度は演者として劇に登場したのです。オオカミの仲間の役として、ヤギの仲間の役として、そして、歌を歌うコーラス隊として、大きな声、大きな動き・大きな歌声で、劇団の役者さんのように、役になりきって表現していました。とても見事でした。



そして、物語はメイとガブがいっしょに、大きな満月を見ている場面で終わりました。ヤギのメイとオオカミのガブ、普通ならありえないような友情でつながった2人。これからどんな物語が続いていくのでしょうか。絵本《シリーズ あらしのよるに》

をもっともっと読んでみたりました。

今回の公演のお陰で、普段は経験することができない貴重な経験を、子どもたちはたくさんすることができました。特に5・6年生の子どもたちは、劇団の役者さんの指導を受け、役者さんと一緒に出演することができました。事前のワークショップや本番を通して、一人一人にとっての豊かで深い学びがあったはずです。どの子にとっても、心が豊かになる時間でした。ひょっとして、演劇や表現に目覚めて、もっとやりたい、将来役者になりたい、演劇に関わりたいと思った子がいるかもしれません。

らくりん座のみなさんは、とても温かく、優しく、明るく、ていねいに、そして、熱い心で、子どもたちに指導をしてくださいました。劇が終わった後の記念撮影にも快く応じてくださったり、子どもたち一人一人にていねいに接してくださったりしている様子に感動しました。演劇で演じることや子どもたちと

※裏面に続く。

関わることを通して、子どもたちの成長を応援してくださっているのだなあと強く感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

子どもたちも、それに応えて一生懸命にがんばったと思います。普段以上の力、普段は隠っていた力が引き出されたと思います。本当によくがんばりました。すばらしかったです。

ご覧いただいた皆様にも、子どもたちのがんばりを感じていただくと同時に、素敵な時間をお過ごしいただけたと思います。これからも、学校の様々な取組を通して、保護者の皆様や地域の皆様とともに歩んで行きたいと思います。ありがとうございました。



6年生とらくりん座のみなさん



5年生とらくりん座のみなさん